

主な災害調査や共同研究調査の例

1 ス페인・マドリッド市の超高層ビル火災調査 (2005年3月)

スペインの首都マドリッド市の中心部に立つ32階建て高層ビル(Windsorビル)で2005年2月12日深夜に火災が発生した。火災は急激に上階へだけでなく下階へも延焼し、架構の大規模崩壊が発生した。(写真1)

超高層ビルの通常の火災による崩壊は世界的にも例が少なく、わが国にある多数の超高層ビルの火災安全性にとっても教訓とすべき課題があることも想定されたため、2005年3月29日～4月2日にかけて実施された現地調査団に参加した。



写真1 ウィンザービルの南側ファサードの崩壊の過程

2 平成19年能登半島地震に関する調査 (2007年4月)

平成19年能登半島地震について発災直後に現地調査を行った。また、その後も避難所に生活する方々へのアンケート調査を実施し、そのデータから本地震における(全壊住宅数に比しての)死傷者数の少なさが、過去の1967年～2007年の全壊住宅10戸以上の17の地震における死傷者数と全壊住宅数の関係と比べて、実際に少ないと言えるのかどうかを検証した。その結果、右図の回帰式によって予想される重傷者数の推測値にくらべて、今回の地震による重傷者数は実際に少ないことがわかった。なお、その理由については建物構造の地域性など今後の検討課題である。



写真2 能登半島地震の調査から(2007年4月)

